

NEWS Letter

Institute of Social Safety Science

地域安全学会ニューズレター No. 104

—目次—

1. 第43回（2018年度）地域安全学会研究発表会（秋季）
開催要領 1
2. 第43回（2018年度）地域安全学会研究発表会（秋季）
一般論文募集 3
3. 地域安全学会論文集 No.34（電子ジャーナル）の募集と
投稿方法 9
4. 総会等報告 11
5. 東日本大震災連続ワークショップ 2018 in 南三陸 開催報告 29
6. 地域安全学会 30周年記念シンポジウム開催報告 33
7. 寄稿
これまでの研究テーマのことなど
田中正人（追手門学院大学） 37



地域安全学会ニューズレター
ISSS News Letter

No. 104

2018. 8

1. 第43回（2018年度）地域安全学会研究発表会（秋季）開催要領

第43回（2018年度）地域安全学会研究発表会（秋季）を、「静岡県地震防災センター」において、下記の要領で開催いたします。

地域の安全、安心、防災に関心のある多くの方々の参加により、活発な発表、討議、意見の交流が行われることを期待いたします。奮ってご参加下さい。

(1) 研究発表会

■日時：平成30年11月2日（金）～11月3日（土）

■場所：静岡県地震防災センター

〒420-0042 静岡市葵区駒形通り 5-9-1

TEL：054-251-7100

<http://www.pref.shizuoka.jp/bousai/e-quakes/access/index.html>



□徒歩：県庁またはJR静岡駅より、徒歩約25分（約2キロメートル）

□バス利用：JR静岡駅下車、静鉄バス「静岡駅前7番乗り場」中部国道線「本通十丁目」下車徒歩3分、「静岡駅前11番乗り場」西部循環駒形回り線「駒形五丁目」で下車、徒歩2分

□車利用：東名静岡インターを降り、「インター通り」を北進、国道1号の交差点を右折、2つ目の信号「清閑町」交差点を左折し、「しあわせ通り」を左側

■スケジュール *論文の採択本数によりスケジュールは多少変更することがあります。詳しくは10月号を参照下さい。

(1)11月2日（金）	10:00～	受付開始（静岡県地震防災センター2F） （ポスター発表登録、 <u>展示作業は10:00開始</u> ）
	10:30～10:40	開会あいさつ
	10:40～12:15	査読論文発表
	12:15～14:00	昼休み & 一般論文発表（リスコミ関連発表のみ） *変更となる可能性があります
	14:00～17:15	査読論文発表
(2)11月3日（土）	9:00～	受付開始（静岡県地震防災センター2F）
	9:30～12:15	査読論文発表
	12:15～14:30	昼休み & 一般論文発表（ポスターセッション） （コアタイム：13:00～14:30）
	14:45～15:45	リスクコミュニケーションのモデル形成事業関連特別セッション *変更となる可能性があります
	15:45～16:45	査読論文発表
	18:00～	懇親会（論文奨励賞の審査結果を発表します）

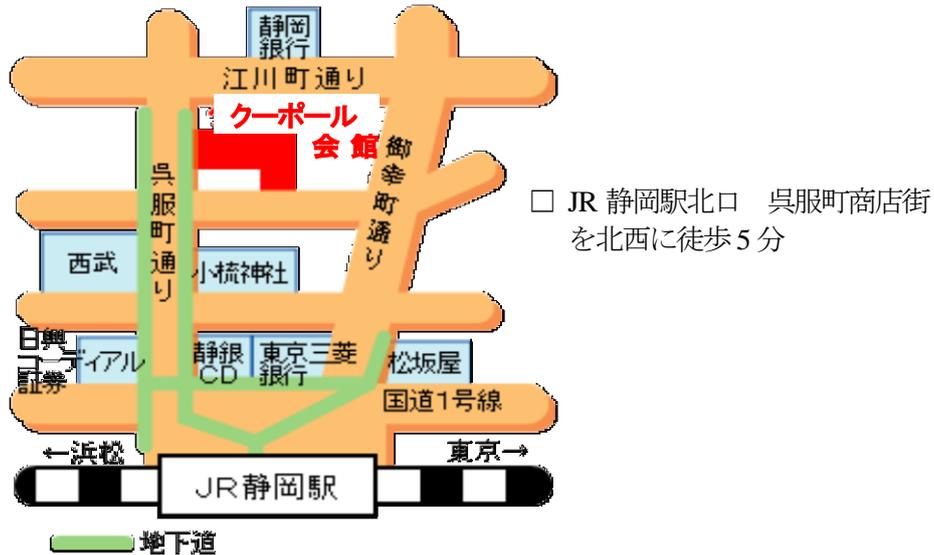
■参加費：無料（ただし梗概集、論文集は有料）

	梗概集 Proceedings	論文集 Journal
会員・会員外	4,000 円／冊	4,000 円／冊
査読論文発表者 (筆頭著者のみ)	4,000 円／冊	1 冊進呈 (追加購入；4,000 円／冊)
一般論文発表者 (筆頭著者のみ)	1 冊進呈 (追加購入；4,000 円／冊)	4,000 円／冊

(2) 懇親会

■日時：平成30年11月3日（土）
18：00～ 20：00

■場所：クーポール会館
〒420-0852 静岡市紺屋町2-2
TEL：054-254-0251



■参加費：一般7,500 円（予定）、学生2,500 円

2. 第43回(2018年度)地域安全学会研究発表会(秋季)一般論文募集

(1) 投稿要領

地域安全学会 秋季研究発表会実行委員会

会員各位におかれましては、お忙しい日々をお過ごしのことと存じます。

さて、第43回(2018年度)地域安全学会研究発表会(秋季)を下記の通り開催いたします。例年通り、一般論文の発表形式が**ポスター発表のみ**となっております。なお、**Eメールによる事前登録が必要**です。また**投稿論文はPDFファイルに変換し、Eメールで投稿する形式となっております**。ふるってご応募くださいますようご案内申し上げます。

I. 開催日時・場所

- (1) 日時：平成30年11月2日(金)～3日(土)
一般論文(ポスター)の発表は11月3日(土)(昼休み直後～午後の査読論文発表会開始までの時間帯)、コアタイム及び優秀発表賞審査は13:00～14:30の予定です。

また、11月2日(金)10:00～ポスターの展示が可能となります。

ただし、下記の「Eメールによる登録」で、リスクコミュニケーションのモデル形成事業関連の発表として登録されたものについては、**2日間両日の展示を必須とします**。両日ともポスター説明を求めるかについては**10月を目途にご連絡致します**。

- (2) 場所：静岡県地震防災センター

静岡市葵区駒形通5-9-1(JR静岡駅より徒歩25分)

II. 投稿方法

論文を投稿するには、**Eメールによる登録を行っていただく必要があります**。**発表形式は「ポスター発表」のみです**。

II-1. Eメールによる登録

- (1) 登録期限：平成30年9月14日(金)
(2) 宛先：ippan-aki@iss.info
(3) 登録内容、書式：
1行目 「地域安全学会一般論文登録」と入力してください。
2行目 論文題目
3行目 筆頭著者氏名
4行目 筆頭著者所属
5行目 筆頭著者連絡先住所(郵便番号も)
6行目 筆頭著者Eメールアドレス
7行目 筆頭著者電話番号
8行目 筆頭著者ファックス番号
9行目 **文部科学省リスクコミュニケーションのモデル形成事業(学協会型)による地域安全学会の取組み「行政・住民・専門家の協働による災害リスク等の低減を目的とした双方向リスクコミュニケーションのモデル形成事業」による発表の場合には「リスコミ該当」と記載し、該当しない場合には「該当せず」と記載**
10行目 連名著者がいない場合は論文概要(250字以内)、いる場合はその氏名、所属を1行に1名ずつ記入、改行後、論文概要(250字以内)

注) 発表者がわかるように氏名に○をつけてください。

- (4) その他：

(a) 登録時の論文概要を発表会プログラムと共に、次号の「ニュースレターNo.101」および学会ホームページに掲載する。

載する。

- (b) 発表は一人一論文のみ
(c) 登録完了後、事務局より受付番号の入った登録受理メールをお送りします。

II-2. 本文の送付

- (1) 送付期限：平成30年9月28日(金)
(2) 論文形式：
(a) 次ページに掲載してある投稿形式参照。なお、当学会のホームページ(www.iss.info)に掲載のMS-Wordテンプレートをダウンロードの上、利用可能。
(b) A4版、4ページ以内。PDFファイルに変換したものを投稿してください。投稿されたPDFファイルを白黒出力し印刷します。
(3) 送付先
(a) E-mail: ippan-aki@iss.info
(PDFファイルをe-mailにて送付してください)
(4) 本文送付時のメールの書式：
1行目 「優秀発表賞に応募します」あるいは「優秀発表賞に応募しません」というどちらかを明記ください。
*「優秀発表賞」については、本投稿要領の「V. 優秀発表賞の事前応募登録」をお読みください。
2行目 Eメールによる発表登録受理メールにて返信された受付番号
3行目 筆頭著者(=優秀発表賞の応募登録者)の氏名
4行目 筆頭著者所属

III. 投稿料の納入

- (1) 投稿料：10,000円(4ページ以内厳守)
(2) 投稿料の納入方法
① 期限：平成30年9月28日(金)までに②宛てに振り込んでください。
② 振込先：
銀行：りそな銀行 市ヶ谷支店(店番号725)
口座名：一般社団法人地域安全学会 秋季研究発表会口座
口座種別・番号：普通預金 1745849
振込者名：筆頭著者氏名
③ その他：振り込みの際には、登録受理メールにて**返信された受付番号を筆頭著者氏名の前に入力してください**。

- ④ 注意：法人化に伴いそれ以前と口座が変わっています。
また、査読論文の登載料振り込み口座とは異なりますの
でご注意ください。

・選考結果：大会当日の懇親会で発表する

IV. ポスター発表の設営等

(1) ポスターの内容：

著者の所属・氏名、発表の目的、内容、結論をコンパクトに記述のこと。与えられた大きさの中で、視覚に訴えるよう多色使いとし、図表、写真等を自由に使ってください。

(2) パネルの大きさ等：

1論文に対し、パネル1枚（横90cm×縦180cmのベニヤ板）を提供。掲示のための画鋸やセロテープは、各自持参のこと（取り外しを考慮すると画鋸が最適）

(3) 部屋およびポスターの設営期間、発表、撤去

部屋、設営期間、発表スケジュール、撤去についてはニュースレタ10月号にて連絡いたします。

なお、ポスター発表会場ではパソコンによるプレゼンテーションのための机を用意することは可能ですが、電源の制約があります。

V. 優秀発表賞の事前応募登録（地域安全学会 表彰委員会）

地域安全学会では、平成24年度から春季・秋季研究発表会での一般論文の研究発表（口頭発表・ポスター発表）を対象として優秀発表賞を設置し、表彰を行っています。来たる平成30年11月に実施される第43回（2018年度）地域安全学会研究発表会(秋季)一般論文については、下記要領で実施します。

事前に応募登録された方のみを対象に選考するものとし、受賞資格を下記のように設けていますのでご確認の上、必ず下記の方法にて応募登録をお願いします。大学院生をはじめとする若手会員の皆さんや新たに研究活動を始められた方々の活発な研究活動を奨励することを目的としております。奮って応募していただくようお願いいたします。なお、応募者は当日の懇親会に出席の上、選考結果発表会に臨むものとしています。

■「優秀発表賞」応募登録の方法

・論文本文送付時に情報を記載する。詳しい方法については、「II. 投稿方法」の「II-2. 本文の送付」の「(4) 本文送付時のメールの書式」を参照してください。

■地域安全学会研究発表会(秋季)での実施要領

・授賞対象：

「地域安全学会優秀発表賞」の授賞対象者は、地域安全学会 研究発表会（春季・秋季）での一般論文の研究発表（口頭発表・ポスター発表）の発表者であり、原則、研究実施または論文作成において指導を受ける立場にある40歳（当該年度4月1日時点）未満の者とする。ただし、実務者等は研究歴等を考慮し年齢規定を緩和することもある。再受賞は認めない。また、予定された発表者ではない代理発表者及び一般論文登録時に審査を希望しない旨登録した者は対象外とする。

・授賞件数：若干名（当日の選考結果発表会に出席できる者）

・選考方法：口頭発表の内容、プレゼンテーション、質疑応答の総合評価

(2) 投稿規程

一般論文投稿規程

平成21年7月
地域安全学会 研究発表会実行委員会

1. 一般論文投稿分野

地域社会の安全問題、解決策についての横断的な幅広い分野の研究・技術・実務などを論ずるもの、あるいは具体的な提言に関するもの。

2. 投稿者

論文の筆頭著者は、地域安全学会会員に限り、研究発表会において発表し、かつ討議に参加しなければならない。

3. 投稿先

地域安全学会研究発表会実行委員会の宛先とする。

4. 発表方法

一般論文の発表方法は「口頭発表」または「ポスター発表」による。筆頭著者（発表者）1人につき、1演題に限るものとする。

5. 投稿手続き

5-1投稿期限：投稿期限は、地域安全学会研究発表会に先だって会告する。

5-2投稿原稿の内容：投稿原稿は、1編で完結したものとし、同一テーマのものとのシリーズ発表は受け付けない。また、秋の研究発表会については、同一会期内で開催される研究発表会で発表する査読論文とは異なるものとする。

5-3使用言語：投稿論文に使用可能な言語は、和文または英文でなければならない。

5-4提出原稿の様式：投稿者は、期日までに「地域安全学会梗概集」に登載するための「印刷用オリジナル原稿」を地域安全学会研究発表会実行委員会事務局まで提出しなければならない。提出原稿は、「一般論文投稿形式」によるものとし、図・表・写真を含め、PDFファイルで提出するものとする。PDFファイルを白黒出力したものを印刷用の版下原稿とする。

6. 著作権

6-1 著者は掲載された論文等の「著作権」を本会に委託する。

6-2 著者が自らの用途のために自分の掲載論文等を使用することについて制限はない。なお、論文等をそのまま他の著作物に転載する場合にはその旨を明記する。

6-3 掲載された論文等の編集著作権、出版権は本会に帰属する。

6-4 第三者から本会に対して、論文等の翻訳、図表の転載の許諾要請があった場合、著者に通知し許諾を求める。ただし既に本会会員として所属せず、連絡不能な場合はこの限りでない。

6-5 著者は、本会または本会が許諾した者の利用に伴う変形については「同一性保持権」を行使しないものとする。

6-6 論文等の内容が第三者の著作権を侵害するなど、第三者に損害を与えた場合は著者がその責を負う。

6-7 論文等の著作権の使用に関して本会に対価の支払いがあった場合は、本会会計に繰り入れて、学会活動に有効に活用する。

(3) 執筆要領と投稿形式

地域安全学会講演概要集の執筆要領と和文原稿作成例 Guideline for Manuscript and Japanese Paper Sample of the Proceedings of Social Safety Science

地域 太郎¹, ○安全 花子²
Taro CHIIKI¹ and Hanako ANZEN²

¹ 地域安全大学 情報工学科

Department of Information Technology, Chiiki Anzen University

² 防災科学コンサルタント(株) 防災技術部

Department of Disaster Mitigation Engineering, Bousai Kagaku Consultants Co., Ltd.

The present file has been made as a print sample for the Proceedings of ISSS. The text of this file describes, in the camera-ready manuscript style, instructions for preparing manuscripts, thus allowing you to prepare your own manuscript just by replacing paragraphs of the present file with your own, by CUT & PASTE manipulations. Both left and right margins for your Abstract should be set 1 cm wider than those for the text of the article. The font used in the abstract is Times New Roman, 9pt, or equivalent. The length of the abstract should be within 7 lines.

Key Words : Times New Roman, italic, 9 point font, 3 to 6 words, one blank line below abstract, indent if key words exceed one line

1. レイアウト

(1) マージン等

- ・上下 : 各 20mm, 左右 : 各 20mm
- ・二段組み本文の段組間隔は 8mm

(2) フォント等

- ・題目 : 和文はゴシック 14pt, 中央揃え, 左右各 30mm のマージン.
英文は Times New Roman 12pt, 中央揃え, 左右各 30mm のマージン.
- ・著者名 : 和文は明朝 12pt, 中央揃え, 左右各 30mm のマージン.
英文は Times New Roman 12pt, 中央揃え, 左右各 30mm のマージン.
- ・著者所属 : 和文は明朝 9pt, 左揃え 30mm のマージン.
英文は Times New Roman 9pt, 左揃え 30mm のマージン.
- ・アブストラクト : 英文 Times New Roman 9pt, 左揃え, 左右各 30mm のマージン.
- ・キーワード : Times New Roman, italic, 9pt, 3-6 語, 2 行以内, 左右各 30mm のマージン.
“Key Words” はボールドイタリック体.
- ・本文 : 明朝 9pt, 行替えの場合は 1 字下げ.
一章の見出し : ゴシック 10pt, 左寄せ
一節, 項の見出し : ゴシック 9pt, 左寄せ
一図, 表, 写真のキャプション : ゴシック 9pt, 中央揃え
- ・補注, 参考文献の指示 : 明朝 9pt の右肩上付き 1/4 角を原則としますが, 各学問分野の慣例に従っても構いません.
- ・補注(必要な場合) : “補注” はゴシック 10pt, 左寄せ, 補注自体は, 明朝 8pt.
- ・参考文献 : “参考文献” はゴシック 10pt, 左寄せ. 参考文献自体は, 明朝 8pt.

(3) 行数および字数

二段組みとし, 一段当りの幅は 81mm, 1 行当り 25 字, 行間隔は 4.3mm で, 1 ページ当り 60 行を標準として下さい. したがって, 文章のみのページでは 1 ページ当り 3,000 字が標準的な字数となります.

(4) 総ページ数

題目から参考文献までを含めて, 最大 4 ページの偶数ページとして下さい.

2. 英文論文への適用

本文を英文とする論文の執筆要領は, 本文が和文であることを前提として作成した本「執筆要領」に準拠して下さい. しかし, 英文の場合は, 和文のタイトル, 著者名, 所属は不要です.

本文のフォントは, Times New Roman 9pt を基本として使用して下さい.

3. 印刷用オリジナル原稿

「地域安全学会講演概要集」は, 定められた期日までに, 印刷用オリジナル原稿を提出していただきます.

印刷用オリジナル原稿とは, 印刷・出版用の高度なタイプライターもしくはコンピューターシステムを用いて作成され, そのままオフセット印刷にかけられる完全な体裁に整えられた原稿を指します.

4. 著作権と著者の責任

「地域安全学会講演概要集」に登載された個々の著作物の著作権は著者に属し, 原稿の内容については著者が責任を持つこととなります. したがって, 印刷後発見された誤植や内容の変更はできません. 誤植の訂正や内容の変更が必要な場合は, 著者の責任において, 文書で, 当該論文が登載されている「地域安全学会講演概要集」所有者に周知して下さい.

(4) 地域安全学会研究発表会における「技術賞」の応募登録のお知らせ

地域安全学会 表彰委員会

地域安全学会では、平成20年度から、「地域社会における安全性および住民の防災意識の向上を目的として開発され、顕著な貢献をしたすぐれた技術（システム、手法、防災グッズ、情報技術、マネジメント技術を含む）」を対象として「技術賞」を創設し、表彰を行っています。平成25年度から、広く会員への周知を図るとともに、一般論文投稿時に筆頭著者から応募登録を受け付けることで審査対象を広げ、別途応募書類を作成する事なく一次選考対象に加えることにしています。

なお、この応募登録の有無にかかわらず、従来通り10月に改めて技術賞候補の推薦を公募した際に申請書類を提出していただいて、新たな成果を追加し再応募することも可能です。審査会は、今年度のすべての応募を対象に年一回行われます。

同じく一般論文を対象とした「優秀発表賞」とは審査の視点や対象が異なるため、重複応募登録は妨げません。奮って応募していただくようお願いします。

■研究発表会(秋季)における「技術賞」応募登録の方法は以下の要領でお願いします。

論文本文送付時に、論文を送付したメールとは別便のメールで以下の情報を記載して下さい。

(1) 登録期限：一般論文の本文送付期限と同じ

(2) 宛先：一般論文の送付先メールアドレスと同じ： ippan-aki@isss.info

(3) 応募登録内容、書式：

・メール本文に以下の情報を記載する。

1行目 「技術賞に応募します」と入力してください。

2行目 Eメールによる発表登録受理メールにて返信された受付番号

(以下の①～⑤についてそれぞれ400字以内で述べてください。該当しない項目は、「該当なし」と記載願います)

3行目 当該技術の「①実績・開発期間」

4行目 当該技術の「②有用性・実用性」

5行目 当該技術の「③革新性・新規性」

6行目 当該技術の「④一般性・汎用性」

7行目 当該技術の「⑤将来性・展開性」

8行目 筆頭著者（＝技術賞の応募登録者）の氏名

9行目 筆頭著者の所属

10行目 筆頭著者連絡先住所（郵便番号も）

(自宅以外の場合は、所属部課名、研究科／専攻名、研究室名などを最後まで正確に記載)

11行目 筆頭著者のE-メールアドレス

■研究発表会(秋季)の査読論文、並びに電子ジャーナル論文投稿時における、著者からの「技術賞」応募登録制度はありませんが、学術委員会による推薦制度が設けられています。

(5) 研究発表会（秋季）「優秀発表賞」事前応募登録のお知らせ

地域安全学会 表彰委員会

地域安全学会では、平成24年度から春季・秋季研究発表会での一般論文の研究発表（口頭発表・ポスター発表）を対象として優秀発表賞を設置し、表彰を行っています。来たる平成 30年11月に実施される第43回（2018年度）地域安全学会研究発表会(秋季)一般論文については、下記要領で実施します。

事前に応募登録された方のみを対象に選考するものとし、受賞資格を下記のように設けていますのでご確認の上、必ず下記の方法にて応募登録をお願いします。大学院生をはじめとする若手会員の皆さんや新たに研究活動を始められた方々の活発な研究活動を奨励することを目的としております。奮って応募していただくようにお願いします。なお、応募者は当日の懇親会に出席の上、選考結果発表会に臨むものとしています。

■「優秀発表賞」応募登録の方法

・研究発表会実行委員会への論文本文送付時に、メール本文に以下の情報を記載する。

- 1行目 「優秀発表賞に応募します」と入力してください
- 2行目 Eメールによる発表登録受理メールにて返信された受付番号
- 3行目 筆頭著者（＝優秀発表賞の応募登録者）の氏名
- 4行目 筆頭著者の所属

*論文本文送付時に情報を記載する方法については、本ニューズレター「2. 第43回（2018年度）地域安全学会研究発表会（秋季）一般論文募集」の「(1)投稿要領」の「II. 投稿方法」の「II-2. 本文の送付」の「(4)本文送付時のメールの書式」にも記載されています。

■地域安全学会研究発表会(秋季)での実施要領

・授賞対象：

「地域安全学会優秀発表賞」の授賞対象者は、地域安全学会 研究発表会（春季・秋季）での一般論文の研究発表（口頭発表・ポスター発表）の発表者であり、原則、研究実施または論文作成において指導を受ける立場にある40歳（当該年度4月1日時点）未満の者とする。ただし、実務者等は研究歴等を考慮し年齢規定を緩和することもある。再受賞は認めない。また、予定された発表者ではない代理発表者及び一般論文登録時に審査を希望しない旨登録した者は対象外とする。

- ・授賞件数：若干名（当日の選考結果発表会に出席できる者）
- ・選考方法：口頭発表の内容、プレゼンテーション、質疑応答の総合評価
- ・選考結果：大会当日の懇親会で発表する

3. 地域安全学会論文集 No. 34 (電子ジャーナル) の募集と投稿方法

平成 30 年 7 月
地域安全学会 学術委員会

地域安全学会では研究発表会(秋季)論文に加えて、電子ジャーナル論文の募集を実施しております。2018 年度も「地域安全学会論文集 No. 34 (電子ジャーナル)」を募集することになりました。本電子ジャーナル査読論文については、平成 30 年 8 月 24 日(金)正午 12:00 までの期間内に、地域安全学会の Web サイトから、論文申込と査読用論文原稿を同時に投稿して下さい。

査読は、カラー原稿を前提として行います。なお、再録、印刷される冊子体論文集はすべて白黒印刷とします。また、論文別刷りの作成・送付は行わないこととしておりますので、ご了承下さい。

会員各位の積極的な電子ジャーナル査読論文の投稿をお願いします。

1. 日程等

- (1) 論文申込と査読用論文原稿の投稿期間(オンライン論文投稿・査読システム)
平成 30 年 7 月 20 日(金)～平成 30 年 8 月 24 日(金)正午 12 時(時間厳守)
- (2) 第一次査読結果の通知
平成 30 年 11 月 9 日(金)頃
- (3) 修正原稿の提出期限(オンライン論文投稿・査読システム)
平成 31 年 1 月 4 日(金)正午 12:00(時間厳守)
- (4) 第二次査読結果の通知
平成 31 年 1 月 18 日(金)頃
- (5) 再修正原稿の提出期限(オンライン論文投稿・査読システム)
平成 31 年 2 月 22 日(金)正午 12:00(時間厳守)
- (6) 「地域安全学会論文集 No. 34」への登載可否の通知
平成 31 年 3 月 8 日(金)頃
- (7) 登載決定後の最終原稿の提出期限(オンライン論文投稿・査読システムおよび白黒原稿の郵送)
平成 31 年 3 月 22 日(金)正午 12:00(時間厳守)
- (8) 「地域安全学会論文集 No. 34」をホームページ上で電子ジャーナル論文として発行
平成 31 年 3 月 29 日(金)
- (9) 「地域安全学会論文集 No. 34」を再録、印刷
平成 31 年 11 月初旬～中旬 ※平成 31 年度地域安全学会研究発表会時。

2. 査読料の納入

- (1) 査読料 1 万円/編
- (2) 査読料の納入方法
 - ①期 限：平成 30 年 8 月 31 日(金)までに、②宛てに振り込んで下さい。
 - ②振込先：

りそな銀行	市ヶ谷支店
口 座 名：	一般社団法人地域安全学会 査読論文口座
口座種別：	普通口座
口座番号：	1745807
振込者名：	受付番号+筆頭著者 (例：2018-000 チイキタロウ)
 - ③その他：査読料の入金確認をもって論文申込手続きの完了とさせていただきます。

3. 登載料の納入

- (1) 登載料 (CD-ROM 版論文集 1 枚+冊子体論文集 1 冊を含む)
6 ページは 2 万円/編、10 頁を限度とする偶数頁の増頁については、5 千円/2 頁。
- (2) 登載料の納入方法
平成 31 年 3 月 21 日(木)までに、上記 2. (2)-②の振込先に振込んで下さい。

4. その他の注意事項

- (1) 執筆要領テンプレートの入手方法
「論文集の執筆要領」は、電子ファイル「論文集の執筆要領と和文原稿作成例」(テンプレート)が、地域安全学会ホームページ (<http://www.issss.info>) にありますので、必ず最新のテンプレートをご利用下さい。なお、審査の公正を高めるため、査読用論文原稿には、氏名、所属および謝辞を記

載しないこととしておりますので、ご注意ください。詳細につきましては執筆要領をご参照下さい。

- (4) 申込だけで原稿が未提出のもの、査読料の払い込みのないもの、投稿論文が執筆要領に準じていないもの、および期限後の電子投稿は原則として受理できません。
- (5) 「冊子体論文集」は、最終原稿ファイル（PDF 形式）の白黒出力を掲載します。原稿がカラー版の場合でも白黒印刷となります。しかし、「冊子体論文集」に添付される「CD-ROM 版論文集」には、カラー図版に関する制限はありません。

会員の皆様へ 論文査読のご協力お願い

「地域安全学会論文集」への投稿論文につきましては、学術委員会にて論文 1 編あたり 2 名の査読者を、原則として会員内より選出し、査読依頼を e-mail で送信いたします。なお、平成 30 年の第 43 回（2018 年度）研究発表会（秋季）査読論文から、「オンライン論文投稿・査読システム」を使用して、査読業務（論文ダウンロードから査読結果の入力まで）を行っておりますので、ご注意ください。

地域安全学会の会員各位におかれましては、学術委員会より査読依頼が届きましたら、ご多用中のことと存じますが、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

4. 総会等報告

(1) 2018年度地域安全学会総会 報告

1) . 2017年度事業報告

①理事会の開催

2017年度は理事会を下記のとおり開催した。

- 第1回 2017年 6月9日 (金) 石垣市 (石垣商工会館・商工会ホール)
- 第2回 2017年 7月15日 (土) 東京 (同志社大学東京オフィス)
- 第3回 2017年 9月9日 (土) 東京 (同志社大学東京オフィス)
- 第4回 2017年 11月10日 (金) 静岡 (静岡地震防災センター)
- 第5回 2018年 1月20日 (土) 東京 (同志社大学東京オフィス)
- 第6回 2018年 3月24日 (土) 東京 (同志社大学東京オフィス)

②総会・春季研究発表会・公開シンポジウムの開催

総会・春季研究発表会・公開シンポジウムを下記のとおり開催した。

日時：2017年6月9日 (金) ～10日 (土)

i .6月9日 (金)

- (a)一般論文発表： 13:30-16:30、59編
- (b)一般論文発表(文部科学省リスクコミュニケーションセッション) 16:40-17:53、上記59編のうち7編
- (c)2017年度地域安全学会総会 16:45～18:15
- (d)表彰式 (年間優秀論文賞, 論文奨励賞, 優秀発表賞)
- (e)会場：石垣商工会館・商工会ホール (〒907-0013 沖縄県石垣市浜崎町1-1-4)
石垣市IT事業支援センター研修室 (石垣市新栄町6-18)
石垣市立図書館 (石垣市浜崎町1-1)

ii .6月10日 (土)

- (a)公開シンポジウム：9:30～11:30
「低頻度巨大災害への備えとリスクコミュニケーション」
会場：石垣市民会館 中ホール (石垣市浜崎町1丁目1-2)
司会・進行：越村 俊一 (東北大学災害科学国際研究所・教授)
(i)石垣市教育委員会 島袋 綾野 氏
八重山明和津波について
(ii)東北大学災害科学国際研究所 准教授 後藤 和久 氏
琉球列島における低頻度巨大地震・津波のリスク
(iii)石垣市防災危機管理室 室長 大濱 武 氏
石垣市の防災対策の取り組み
(iv)ディスカッション
- (b)現地見学会「八重山大津波の歴史をめぐる」： 12:00～18:00

③東日本大震災連続ワークショップ2017 in 釜石

下記の企画を実施した。

日時：2017年8月5日 (土) ～6日 (日)

場所：釜石情報交流センター (釜石市大町一丁目1番地10号)

- ①東日本大震災ワークショップ：17件
- ②釜石市内復興事業区画を見学

④秋季研究発表会の開催

秋季研究発表会を下記のとおり開催した。

日時：2017年11月10日 (金) ～11日 (土)

場所：静岡県地震防災センター

①査読論文発表：37件，一般論文ポスター発表：56件

②文部科学省リスクコミュニケーション事業特別セッション（上記の査読論文37編のうち、9編）

⑤地域安全学会論文集・梗概集の刊行

i. 春季研究発表会において「地域安全学会梗概集№40」を刊行した。

ii. 秋季研究発表会において「地域安全学会論文集№30（電子ジャーナル論文）、№31（研究発表会論文）」を刊行した。

iii. 秋季研究発表会において「地域安全学会梗概集№41」を刊行した。

iv. 地域安全学会論文集№32（電子ジャーナル論文）をホームページ上に公開した。

⑥地域安全学会論文賞・論文奨励賞・年間優秀論文賞の選出

i. 査読論文（電子ジャーナル）№30(2017.3)、および査読論文（研究発表会）No.31(2017.11)に掲載された合計55編の論文を対象として、2017年地域安全学会論文賞の審査を行った。審査会における審議の結果、審査会における審議の結果、該当者なしとなった。

ii. 上記55編の論文を対象に論文奨励賞の審査を行い、以下の3編の論文の筆頭著者を選出した。

(a) 「VR（仮想現実）を用いた地震火災時の市街地延焼からの避難行動特性」

小林 大吉（東京消防庁四谷消防署）

(b) 「犯罪多発地点の予測に基づく防犯パトロール経路に関する提案」

野 貴泰（警察庁）

(c) 「退職自衛官の自治体防災関係部局への在職状況と課題 本人および自治体防災関係部局への郵送質問紙調査の分析を通して」

中林 啓修（ひょうご震災記念21世紀研究機構 人と防災未来センター）

iii. 上記55編の論文を対象に年間優秀論文賞の審査を行い、以下の1編の論文の筆頭著者を選出した。

・「数値標高モデルによる経験的な土石流氾濫域の予測手法の都市域に対する適用性の検討」（地域安全学会論文集No.31）

三浦 弘之（広島大学）

⑦地域安全学会「技術賞」の選出

11回目を迎えた地域安全学会技術賞の募集に対し、1件の応募登録があり、審査委員8人による厳正な審査の結果、今回の技術賞は、該当なしという結果となった。

⑧地域安全学会「優秀発表賞」の選出

第40回（2017年度）地域安全学会研究発表会（春季）において、59編の口頭発表が行われ、また、第41回（2017年度）地域安全学会研究発表会（秋季）においては、56編の口頭発表が行われた。審査の結果、以下の発表を行った6名を授賞対象者として選出した。

【春季】

(a) 「地震発生確率とリスク認知—地震動予測地図の認識に関する基礎的研究—」

齋藤さやか（東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター）

(b) 「洪水ハザードマップを活用した確率論的リスク評価手法の開発」

中西 翔（㈱インターリスク総研）

(c) 「神戸市における地域力活性化と安全・安心」

松川杏寧（人と防災未来センター）

【秋季】

(a) 「混住地域における放射線災害からの地域環境創生に関する論点整理—福島県三春町を事例として—」

辻岳史氏（国立研究開発法人国立環境研究所福島支部）

(b) 「個別要素法を用いた建物崩壊過程における人的被害発生機構推定—長野県神城断層地震被害例への適用及び比較—」

松本将武氏（北海道大学大学院工学院）

(c)「2016年11月22日福島県沖地震津波発生時の宮城県亘理町における避難行動の実態－東日本大震災の経験や津波避難訓練との関係－」

戸川直希氏（東北大学大学院工学研究科土木工学専攻）

⑨ニュースレター発行とホームページ管理

2017年度はニュースレター№99－№102の計4号を発行し、学会ホームページ上に掲載した。今後、学会の広報活動の柱としてホームページを位置づけ、引き続き内容の充実を図っていくこととした。

⑩会員メーリングリストによる情報提供

会員への迅速な情報発信を目指して、メールによる情報配信を行った。個人情報保護を考慮しつつ、効率的な会員サービスと会員管理を進めた。

⑪企画研究小委員会研究活動

企画研究小委員会において3テーマについて研究活動を実施した。

⑫東日本大震災関連活動

- i. 岩手県釜石市において「東日本大震災連続ワークショップ2017 in 釜石」を開催した。
- ii. 東日本大震災特別委員会ワークショップにおいて「地域安全学会東日本大震災特別論文集 No.6」を刊行した。

⑬国際学術交流

2017年11月25～27日に仙台市で開催される世界防災フォーラムにおいて、第4回アジア防災会議を開催した。発表論文数は、35編であった。

⑭シンポジウム等の共催・参加

以下の催事に、地域安全学会として共催した。

- ・第22回「震災対策技術展」横浜
- ・安全工学シンポジウム2017（日本学術会議）
- ・第15回日本地震工学シンポジウム（日本地震工学会）（2018年度実施：共催承認のみ）

⑮文部科学省リスクコミュニケーションのモデル形成事業の実施

- i. 2016年度から、文部科学省の補助金によるリスクコミュニケーションのモデル形成事業として「行政・住民・専門家の協働による災害リスク等の低減を目的とした双方向リスクコミュニケーションのモデル形成事業」を実施し、14の大学・研究機関の研究者により、行政・住民・専門家といった多様なステークホルダーが参画したマルチハザード（防犯も含む）対応の地区防災計画づくり等支援をワークショップ形式で進めるほか、行政の委員会等への参加や行政を対象とした講演、行政と連携した住民・事業者等への講演を通じて、地域社会の災害リスク等の低減に資するリスクコミュニケーションを実践した。
- ii. 2017年度地域安全学会春季研究発表会特別セッション（2017年6月9日：沖縄県石垣市商工会館・商工会ホール）
- iii. 地域安全学 夏の学校2017－基礎から学ぶ防災・減災－（2017年8月7日：同志社大学東京オフィス）
- iv. 2017年度地域安全学会秋季研究発表会特別セッション（2017年11月10日：静岡県地震防災センター）

⑯会員数および年会費納入（2018年3月末）

	会員数	2017年度 会費納入状況
賛助会員	2	2
正会員	531	511
学生会員	84	62

2) . 2017年度決算

決算に関して、宮野監事、重川監事による監査を受けた。指摘された修正を取り入れた以下の決算報告に対して承認をいただいた。

【貸借対照表】

(単位：円)

資産の部		負債及び正味財産の部	
科目	金額	科目	金額
現金	102,657	未払金	2,609,605
普通預金	6,142,896	預り金	7,654
(うち、国際交流事業用資金)	187,976	前受金	31,000
【口座別内訳】 ゆうちょ銀行	131,153	仮受金	0
振替預金	94,189	未払法人税等	76,100
春季研究発表	1,025,224		
秋季研究発表	868,712		
りそな査読論文	1,095,044		
りそなワークショップ	840,065		
りそなリスコム事業	2,088,509		
前払費用	48,760		
商品	2,298,552		
未収会費	361,000		
未収入金	0		
ソフトウェア	0		
		負債合計	2,724,359
		その他一般正味財産	6,229,506
		正味財産合計	6,229,506
資産合計	8,953,865	負債・正味財産合計	8,953,865

【損益計算書】

(単位：円)

科 目	金 額
【Ⅰ 収入】	
1 会費収入	4,345,000
2 寄付金収入	0
3 受取助成金	10,000,000
4 事業収入	
ア 梗概集登載料	1,215,000
イ 梗概集販売料	263,558
ウ 論文集登載料	1,410,000
エ 論文集査読料	670,000
オ 論文集販売料	233,605
カ DVD販売料	45,360
5 雑収入	
ア 懇親会費	1,057,500
イ 視察費	391,500
ウ その他	29,000
6 受取利息	86
収入合計	19,660,609
【Ⅱ 支出】	
1 人件費	806,080
2 通信・広報費	279,554
3 印刷・編集費	1,869,737
(印刷編集費棚卸対応分)	10,899
4 会議費	914,000
5 旅費交通費	6,087,524
6 交際費	969,374
7 委託費	2,121,991
8 消耗品費	2,462,280
9 事務用品費	8,847
10 減価償却費	71,148
11 支払手数料	263,732
12 謝金	130,000
13 補助金	30,000
14 事務局費	2,328,000
15 租税公課	42,219
16 運営費	1,091,173
17 雑費等	3,846,515
支出合計	23,333,073
税引前当期利益	-3,672,464
法人税等	76,100
当期利益	-3,748,564
前期繰越利益金額	9,978,070
次期繰越利益金額	6,229,506

2017年度地域安全学会収支計算書

(2017年4月1日～2018年3月31日)

収入の部

(単位：円)

科 目	①予算	②決算	比較 ①-②	備 考
1.会費収入	3,704,600	4,151,000	▲ 446,400	正会員:7,000円×541名 (うち7名、過年度分) 正会員:5,000円×6名 (過年度分) 学生会員:2,000円×67名 賛助会員:100,000円×2社
2.寄付金収入	0		0	
3.受取助成金等	10,000,000	10,000,000	0	リスクコミュニケーション特別企画研究 (29年度分)
4.春季研究発表会				
1)事業収益				
ア 梗概集登載料	500,000	465,000	35,000	登載料 (ページ数対応5,000円/2ページ)
イ 梗概集販売料	190,000	75,814	114,186	1冊:4,000円×16部+CD1,000×10枚+送料
2)雑収入				
ア 懇親会費	455,000	481,000	▲ 26,000	懇親会参加費：6,500円×74名
イ 視察費	315,000	288,000	27,000	見学会参加費：4,500円×64名
ウ その他	0	3,000	▲ 3,000	見学会弁当代：1,500円×2名
小 計	1,460,000	1,312,814	147,186	
5.秋季研究発表会				
1)事業収益				
ア 梗概集登載料	400,000	560,000	▲ 160,000	登載料 (ページ数対応5,000円/2ページ) ×40名
イ 梗概集販売料	160,000	142,664	17,336	1冊:4,000円×34部 CD 9枚+送料
2)雑収入				
ア 懇親会費	375,000	447,500	▲ 72,500	懇親会参加費：7,500円×49名、2,500円×32名
イ 視察費	0	0	0	
ウ その他	0	0	0	
小 計	935,000	1,150,164	▲ 215,164	
6.東日本大震災連続ワークショップ				
1)事業収益				
ア 梗概集登載料	280,000	190,000	90,000	登載料 (ページ数対応5,000円/2ページ) ×28名
イ 梗概集販売料	60,000	45,080	14,920	1冊：2,000円×22部+送料
2)雑収入				
ア 懇親会費	195,000	129,000	66,000	懇親会参加費：6,000円×20名、3,000円×3名
イ 視察費	90,000	103,500	▲ 13,500	見学会参加費：4,500円×23名
ウ その他	0	24,000	▲ 24,000	送迎バス代：2,000×12名
小 計	625,000	491,580	133,420	
7.学術				
1)事業収益				
ウ 論文集登載料	1,500,000	1,410,000	90,000	登載料 (2万円+5,000円/2ページ) ×60名
エ 論文集査読料	700,000	670,000	30,000	査読料：1編10,000円×67名
オ 論文集販売料	188,000	233,605	▲ 45,605	1冊：4,000円×58部+送料
カ DVD販売料	20,000	45,360	▲ 25,360	1枚：15,000×1枚+30,000×1枚+送料
小 計	2,408,000	2,358,965	49,035	
8.受取利息	1,000	86	914	
9.その他	0	0	0	
収入合計	19,133,600	19,464,609	▲ 331,009	

支出の部

(単位：円)

科目	①予算	②決算	比較①-②	備 考
1.事務局・総務				
2) 通信費・広報費	80,000	156,924	▲ 76,924	切手、送料、電話代、宅急便等
3) 印刷編集費	10,000	29,700	▲ 19,700	コピー代、封筒印刷代
4) 会議費	10,000	0	10,000	監査会場代
5) 旅費交通費	250,000	302,218	▲ 52,218	監査の為の交通費、大会等事務局交通費、宿泊費
6) 交際費	20,000	0	20,000	
7) 委託費	324,000	324,000	0	委託費月27,000円 H29年4月～H30年3月
8) 消耗品費	20,000	21,282	▲ 1,282	消耗品、10万円以下の備品
9) 事務用品費	10,000	8,847	1,153	事務用文具等
11) 支払手数料	75,000	186,408	▲ 111,408	銀行振込手数料、役員登記手数料
14) 事務局費	2,328,000	2,328,000	0	委託費@194,000 H29年4月～平成30年3月
15) 租税公課	30,000	42,219	▲ 12,219	源泉所得税、登録免許税、収入印紙代等
16) 運営費	30,000	30,220	▲ 220	メダル作成費
17) 雑費等	0	0	0	
小 計	3,187,000	3,429,818	▲ 242,818	
2.広報				
7) 委託費	30,000	23,760	6,240	HP情報更新料・サーバ利用料
11) 支払手数料	1,000	216	784	銀行振込手数料
小 計	31,000	23,976	7,024	
3.総会・理事会				
1) 人件費				
ア アルバイト給料	0	0	0	
2) 通信費・広報費	80,000	56,278	23,722	総会の案内資料印刷・発送代
3) 印刷編集費	60,000	79,067	▲ 19,067	案内送付用封筒・ハガキ・案内資料印刷
4) 会議費	160,000	210,000	▲ 50,000	理事会 会場費
5) 旅費交通費	500,000	523,990	▲ 23,990	理事会 旅費交通費
11) 支払手数料	5,000	5,616	▲ 616	銀行振込手数料
小 計	805,000	874,951	▲ 69,951	
4.学術				
1) 人件費（アルバイト給料）	30,000	408,500	▲ 378,500	論文データ等アップデート作業代
2) 通信費・広報費	50,000	19,677	30,323	論文送送料
3) 印刷編集費	810,000	854,280	▲ 44,280	論文集No.30.31 220部印刷料、コピー代
4) 会議費	80,000	117,500	▲ 37,500	学術委員会昼食代、飲食代
5) 旅費交通費	350,000	407,853	▲ 57,853	学術委員会参加交通費
7) 委託費	511,920	511,920	0	研究発表会論文システム運営費 =研：312,120+電：199,800
8) 消耗品費	5,000	0	5,000	消耗品、10万円以下の備品
11) 支払手数料	5,000	7,776	▲ 2,776	銀行振込手数料
16) 運営費	0	0	0	
小 計	1,841,920	2,327,506	▲ 485,586	
5.国際交流				
11) 支払手数料	10,000	432	9,568	
13) 補助等	0	0	0	
16) 運営費	100,000	65,032	34,968	アカウント代、証書ファイル、お礼の品、交通費等
小 計	110,000	65,464	44,536	

科目	①予算	②決算	比較 ①-②	備 考
6.春季研究発表会				
1) 人件費 (アルバイト給料)	10,000	0	10,000	
2) 通信費・広報費	4,000	9,204	▲ 5,204	梗概集運送料
3) 印刷編集費	190,000	183,708	6,292	梗概集No.40 80部 CD 50枚
4) 会議費	0	0	0	
5) 旅費交通費	550,000	369,150	180,850	現地見学会バス、授賞者旅費
6) 交際費	455,000	455,652	▲ 652	懇親会費用
8) 消耗品費	5,000	0	5,000	賞状用紙他
9) 事務用品費	5,000	0	5,000	文房具代
11) 支払手数料	5,000	3,456	1,544	銀行振込手数料
12) 謝金	30,000	30,000	0	講師、パフォーマー謝礼
16) 運営費	100,000	190,080	▲ 90,080	現地見学会費用 (昼食代含む)
小 計	1,354,000	1,241,250	112,750	
7.秋季研究発表会				
1) 人件費 (アルバイト給料)	40,000	29,520	10,480	
2) 通信費・広報費	5,000	5,059	▲ 59	梗概集送料、賞状送付料
3) 印刷編集費	130,000	190,512	▲ 60,512	梗概集No.41 100部
4) 会議費	0	0	0	
5) 旅費交通費	50,000	3,720	46,280	アルバイト交通費
6) 交際費	375,000	366,660	8,340	懇親会会場代、料理代
8) 消耗品費	5,000	2,434	2,566	賞状、賞状用筒、備品
9) 事務用品費	0	0	0	
11) 支払手数料	5,000	864	4,136	銀行振込手数料
12) 謝金	30,000	30,000	0	パフォーマー謝金
16) 運営費	260,000	423,112	▲ 163,112	昼食、飲み物代、パネル設置代
小 計	900,000	1,051,881	▲ 151,881	
8.東日本大震災連続ワークショップ				
1) 人件費 (アルバイト給料)	20,000	0	20,000	
2) 通信費・広報費	5,000	4,304	696	論文集送料、宅急便代
3) 印刷編集費	200,000	138,348	61,652	特別論文集No.6(CD付) 80部
5) 旅費交通費	100,000	133,668	▲ 33,668	現地見学会等バス代
6) 交際費	195,000	137,430	57,570	懇親会
11) 支払手数料	5,000	864	4,136	銀行振込手数料
12) 謝金	30,000	40,000	▲ 10,000	講師謝礼
16) 運営費	100,000	126,400	▲ 26,400	見学会、昼食代等
小 計	655,000	581,014	73,986	
9.リスクコミュニケーション特別企画研究小委員会				
16) 運営費	10,000,000	13,123,991	▲ 3,123,991	会場料、振込手数料
小 計	10,000,000	13,123,991	▲ 3,123,991	
10.その他事業				
5) 旅費交通費	200,000	136,080	63,920	研究小委員会 (2つ) の旅費交通費
7) 委託費	0	23,760	▲ 23,760	30周年記念シンポジウム テープ起こし代
11) 支払手数料	5,000	2,160	2,840	銀行振込手数料
13) 補助等	30,000	30,000	0	安全工学シンポジウム共催分担金、防災学術連携体会費
16) 運営費	100,000	74,175	25,825	安全・安心若手研究会の運営費：予算100,000円
小 計	335,000	266,175	68,825	
支出合計	19,218,920	22,986,026	▲ 3,767,106	

収入-支出	-3,521,417
-------	------------

なお、科目間の流用を認めます。

2018年5月12日
上記の通り収支決算を報告いたします。

地域安全学会

監事 重川 希志依

監事 宮野 道雄



3) . 会員の除名について

地域安全学会定款第10条により、過去2年度分（2016（H28）年度、2017（H29）年度）の会費を滞納している正会員（4名）及び学生会員（4名）の除名について審議を行う。

(退 会)

第 10 条 正会員、学生会員、名誉会員又は賛助会員は、次に掲げるいずれかの事由によって退会する。

- 1.各会員本人の申し出。ただし、退会の申し出は、当法人所定の退会届により 1 か月前にするものとするが、やむを得ない事由があるときは、いつでも退会することができる。
- 2.死亡又は解散
- 3.総会員の同意
- 4.除名

②正会員、学生会員、名誉会員又は賛助会員の除名は、次に掲げるいずれかの事由により、総会の決議によってすることができる。

- 1.会費を2年以上滞納したとき
- 2.当法人の名誉を傷つけ又は当法人の目的に反する行為があったとき
- 3.その他正当な事由があるとき

除名の対象となる正会員及び学生会員を下記に示す。

■ 正会員(4名)

会員番号	氏名
1469	太田 宏
1688	一ノ瀬 文明
1751	中井 美香
1763	川島 勇我

■ 学生会員(4名)

会員番号	氏名
1516	岡村 健太郎
1764	小川 憲斗
1794	廣瀬 匠
1798	森川 健太

4) . 2017年度役員改選について

昨年度の臨時総会で承認いただいたように、理事、監事は2017～2018年度の2年の任期となるので、2017年度は役員改選を行わなかった。

5) . 2018年度事業計画

①理事会の開催

2017年度は理事会を下記のとおり開催する。

- 第1回 2018年5月25日（土） 北海道奥尻町（奥尻町海洋研修センター）
- 第2回 2018年7月7日（土） 東京（同志社大学東京オフィス）
- 第3回 2018年9月2日（日） 東京（東工大キャンパスイノベーションセンター）
- 第4回 2018年11月2日（土） 静岡（静岡地震防災センター）
- 第5回 2019年1月12日（土） 東京（同志社大学東京オフィス）
- 第6回 2019年3月23日（土） 東京（同志社大学東京オフィス）

②総会・春季研究発表会・公開シンポジウムの開催

総会・春季研究発表会・公開シンポジウムを下記のとおり開催する。

- 日時：2018年5月25日（金）～26日（土）
- 場所：北海道奥尻町（奥尻町海洋研修センター）
（北海道奥尻郡奥尻町奥尻314）

③東日本大震災連続ワークショップ2018 in 南三陸 の開催

- 日時：2018年7月29日（日）～30日（月）
- 場所：南三陸町役場本庁舎（宮城県本吉郡南三陸町志津川字沼田101番地）
 - ・市の関係者による復興状況の講演、研究発表会
 - ・現地見学会、ディスカッション

④秋季研究発表会の開催

- 秋季研究発表会を下記のとおり開催する
- 日時：2018年11月2日（金）～3日（土）
- 場所：静岡県地震防災センター

⑤地域安全学会論文集・梗概集の刊行

- i. 春季研究発表会において「地域安全学会梗概集 No.42」、秋季研究発表会において「地域安全学会梗概集 No.43」を刊行し、優秀発表賞を選出する。
- ii. 地域安全学会論文集の論文募集は年2回とし、今年度は地域安全学会論文集 No.33、同 No.34（電子ジャーナル論文）の論文を募集する。
- iii. 秋季研究発表会において「地域安全学会論文集 No.32、No.33」を刊行し、地域安全学会論文奨励賞を選出する。
- iv. 地域安全学会論文集 No.34（電子ジャーナル論文）をホームページ上で公開する。
- v. 地域安全学会論文集（No.32、No.33）を対象に地域安全学会論文賞および年間優秀論文賞を選出する。

⑥広報活動の強化と会員管理

サービスの向上を目指して、会員へのメールによる各種情報配信、ホームページによる情報提供、印刷物による情報発信について、各々の機能分化した情報提供を実施する。

⑦地域安全学会技術賞の選出

表彰委員会において第12回地域安全学会技術賞の選考を行う。

⑧企画研究小委員会活動

企画研究小委員会において2テーマについて研究活動を実施する。

⑨国際学術交流

- ・2019年度に開催予定の第4回世界防災会議（ICUDR）に向けて、準備を進める。
- ・防災関連の政府関係会議の進展状況をみながら、学会としての対応について検討する。

⑩役員選挙

定款の規定に則り、2018年度に新役員の選挙を実施する。

⑪東日本大震災に関する支援・研究活動の推進

東日本大震災特別委員会による被災地支援・研究活動の実施、東日本大震災学協会連絡協議会への参画を行う。

⑫防災学協会連合組織への参加

「防災学協会連携体」が主催、連携するシンポジウム等に参加し報告を行う。

⑬文部科学省リスクコミュニケーションのモデル事業の継続実施

科学技術人材育成費補助事業「リスクコミュニケーションのモデル形成事業（学協会型）を継続実施し、自然災害分野におけるリスクコミュニケーションの諸課題の実践的な研究を学会として先導する。このため、次の企画において本事業の成果の発表、意見交換等を行う

- ・地域安全学 夏の学校2018 -基礎から学ぶ防災・減災-（2018年8月6日：人と防災未来センター東館4階大教室）
- ・2018年度地域安全学会(秋季)研究発表会特別セッション（2018年11月2日：静岡県地震防災センター）
- ・2018年度地域安全学会秋季ポスターセッションでのリスコミコーナー（2018年11月3日：静岡県地震防災センター）
- ・第15回日本地震工学シンポジウムでのオーガナイズドセッションの開催（2018年12月6～8日：仙台国際センター）
「地震災害リスクコミュニケーションのモデル形成の現在：3年間の取り組みをふりかえる」
- ・本事業の成果発表会の開催（時期・場所未定）

6). 2018年度予算

2018年度地域安全学会予算

(2018年4月1日～2019年3月31日)

収入の部

(単位：円)

科 目	2018年予算	2017年決算	備 考
1.会費収入	4,121,000	4,151,000	正会員:7,000円×541名 学生会員:2,000円×67名 賛助会員100,000円×2社
2.寄付金収入	0		
3.受取助成金等	10,000,000	10,000,000	リスクコミュニケーション特別企画研究 (30年度分)
4.春季研究発表会			
1)事業収益			
ア 梗概集登載料	500,000	465,000	登載料 (ページ数対応5,000円/2ページ) ×50名
イ 梗概集販売料	90,000	75,814	1冊:4,000円×20部 CD1枚1,000円×10枚
2)雑収入			
ア 懇親会費	481,000	481,000	懇親会参加費:6,500円×74名
イ 視察費	315,000	288,000	見学会参加費:4,500円×70名
ウ その他	0	3,000	
小 計	1,386,000	1,312,814	
5.秋季研究発表会			
1)事業収益			
ア 梗概集登載料	560,000	560,000	登載料 (ページ数対応5,000円/2ページ) ×56名
イ 梗概集販売料	160,000	142,664	1冊:4,000円×40部
2)雑収入			
ア 懇親会費	450,000	447,500	懇親会参加費:7,500円×50名、2,500円×30名
イ 視察費	0	0	
ウ その他	0	0	
小 計	1,170,000	1,150,164	
6.東日本大震災連続ワークショップ			
1)事業収益			
ア 梗概集登載料	190,000	190,000	登載料 (ページ数対応5,000円/2ページ) ×19名
イ 梗概集販売料	50,000	45,080	1冊:2,000円×25部
2)雑収入			
ア 懇親会費	75,000	129,000	懇親会参加費:3,000円×25名
イ 視察費	100,000	103,500	見学会参加費:4,000円×25名
ウ その他	0	24,000	
小 計	415,000	491,580	
7.学術			
1)事業収益			
ウ 論文集登載料	1,500,000	1,410,000	登載料 (2万円+5,000円/2ページ) ×60名
エ 論文集査読料	700,000	670,000	査読料:1編10,000円×70名
オ 論文集販売料	200,000	233,605	1冊:4,000円×50部
カ DVD販売料	40,000	45,360	1枚:2万円 (会員価格) ×2枚
2)雑収入			
ア その他	150,000	0	オンライン投稿査読システム利用料 5,000円×30編 日本災害情報学会 日本災害復興学会より
小 計	2,590,000	2,358,965	
8.受取利息	1,000	86	
9.その他	0	0	
収入合計	19,683,000	19,464,609	

支出の部

(単位：円)

科目	①予算	②決算	備 考
1.事務局・総務			
2) 通信費・広報費	150,000	156,924	切手、送料、電話代等
3) 印刷編集費	10,000	29,700	コピー代、封筒印刷代
5) 旅費交通費	300,000	302,218	監査の為の交通費、大会等事務局交通費、宿泊費
6) 交際費	5,000	0	
7) 委託費	324,000	324,000	委託費月27,000円 H30年4月～H31年3月
8) 消耗品費	20,000	21,282	消耗品、10万円以下の備品
9) 事務用品費	10,000	8,847	事務用文具等
11) 支払手数料	75,000	186,408	銀行振込手数料、役員登記手数料
12) 謝金	0	0	
14) 事務局費	2,328,000	2,328,000	委託費月194,000円 H30年4月～H31年3月
15) 租税公課	30,000	42,219	源泉所得税、利子税、登録免許税、収入印紙代等
16) 運営費	30,000	30,220	メダル作成費
17) 雑費等	0	0	
99) 予備費	0	0	
小 計	3,282,000	3,429,818	
2.広報			
7) 委託費	25,000	23,760	HP情報更新料・サーバ利用料
11) 支払手数料	1,000	216	銀行振込手数料
小 計	26,000	23,976	
3.総会・理事会			
1) 人件費			
ア アルバイト給料	0	0	
2) 通信費・広報費	60,000	56,278	総会の案内資料印刷・発送代
3) 印刷編集費	70,000	79,067	案内送付用封筒・ハガキ・案内資料印刷
4) 会議費	200,000	210,000	理事会 会場費
5) 旅費交通費	520,000	523,990	理事会 旅費交通費
11) 支払手数料	5,000	5,616	銀行振込手数料
12) 謝金	0	0	
小 計	855,000	874,951	
4.学術			
1) 人件費(アルバイト給料)			
ア アルバイト給料	400,000	408,500	論文データ等アップデート作業代
2) 通信費・広報費	20,000	19,677	論文発送料
3) 印刷編集費	810,000	854,280	論文集No.32,33 印刷料、コピー代
4) 会議費	100,000	117,500	学術委員会昼食代、飲食代
5) 旅費交通費	350,000	407,853	学術委員会参加交通費
7) 委託費	830,873	511,920	研究発表会論文オンライン査読システム委託費 初期導入費用：324,000+年間利用料：506,873
11) 支払手数料	5,000	7,776	銀行振込手数料
16) 運営費	0	0	
17) 雑費等	0	0	
小 計	2,515,873	2,327,506	
5.国際交流			
11) 支払手数料	10,000	432	
13) 補助等	0	0	
16) 運営費	100,000	65,032	
小 計	110,000	65,464	

科目	①予算	②決算	備 考
6.春季研究発表会			
1) 人件費(アルバイト給料)			
アルバイト給料	0	0	
2) 通信費・広報費	4,000	9,204	
3) 印刷編集費	190,000	183,708	梗概集No.42
4) 会議費	0	0	
5) 旅費交通費	380,000	369,150	現地見学会バス、投資者旅費
6) 交際費	460,000	455,652	懇親会費用
8) 消耗品費	3,000	0	賞状用紙他
11) 支払手数料	3,000	3,456	銀行振込手数料
12) 謝金	20,000	30,000	パネリスト、パフォーマー謝礼
16) 運営費	180,000	190,080	現地見学会費用(昼食代含む)
17) 雑費等	0	0	
小 計	1,240,000	1,241,250	
7.秋季研究発表会			
1) 人件費(アルバイト給料)			
ア アルバイト給料	40,000	29,520	
2) 通信費・広報費	5,000	5,059	梗概集送料、賞状送付料
3) 印刷編集費	170,000	190,512	梗概集No.43
4) 会議費	0	0	
5) 旅費交通費	5,000	3,720	アルバイト交通費
6) 交際費	380,000	366,660	懇親会会場代、料理代
8) 消耗品費	3,000	2,434	賞状、賞状用筒、備品
9) 事務用品費	0	0	
11) 支払手数料	1,000	864	
12) 謝金	30,000	30,000	パフォーマー謝金
16) 運営費	400,000	423,112	昼食、飲み物代、パネル設置代
17) 雑費等	0	0	
小 計	1,034,000	1,051,881	
8.東日本大震災連続ワークショップ			
2) 通信費・広報費	5,000	4,304	
3) 印刷編集費	120,000	138,348	特別論文集No.7(CD付) 60部
5) 旅費交通費	100,000	133,668	現地見学会等バス代
6) 交際費	75,000	137,430	懇親会
11) 支払手数料	1,000	864	銀行振込手数料
12) 謝金	30,000	40,000	講師謝礼
16) 運営費	100,000	126,400	見学会、昼食代等
17) 雑費等	0	0	
小 計	431,000	581,014	
9.リスクコミュニケーション特別企画研究小委員会			
16) 運営費	10,000,000	13,123,991	
小 計	10,000,000	13,123,991	
10.その他事業			
5) 旅費交通費	200,000	136,080	研究小委員会(2つ)の旅費交通費
7) 委託費	0	23,760	
11) 支払手数料	2,000	2,160	銀行振込手数料
13) 補助等	30,000	30,000	安全工学シンポジウム共催分担金、防災学術連携体会費
16) 運営費	100,000	74,175	安全・安心若手研究会の運営費:100,000円
17) 雑費等	0	0	
小 計	332,000	266,175	
支出合計	19,825,873	22,986,026	

収入-支出	-142,873
-------	----------

なお、科目間の流用を認めます。

(2) 2017 年地域安全学会論文賞・年間優秀論文賞・論文奨励賞の授与式

地域安全学会論文賞、年間優秀論文賞、論文奨励賞の授与式が総会会場で行われました。授与式では、糸井川会長より受賞者に賞状と記念メダルが授与されました。

2017 年は、地域安全学会論文集 No. 30、No. 31 に計 55 編の論文が掲載されました。なお、年間優秀論文賞は、一年間に地域安全学会論文集に掲載された査読論文の中から最も優秀な論文を選定しこれを表彰するものです。また、論文奨励賞は、研究発表会での発表論文のうち、筆頭著者でかつ研究発表会で発表を行った者であり、研究実施または論文作成において指導を受ける立場にある原則として 40 歳未満の者を対象とし、当時の発表や質疑の内容を加味した審査によって選考されます。

審査の結果、以下の方が論文賞、年間優秀論文賞、論文奨励賞の受賞者として選ばれました。

(学術委員会)

◆◆◆◆◆ 地域安全学会論文賞 ◆◆◆◆◆

該当なし

◆◆◆◆◆ 地域安全学会年間優秀論文賞 ◆◆◆◆◆

・三浦 弘之（広島大学）「数値標高モデルによる経験的な土石流氾濫域の予測手法の都市域に対する適用性の検討」（地域安全学会論文集 No. 31）

◆◆◆◆◆ 地域安全学会論文奨励賞 ◆◆◆◆◆

- ・小林 大吉（東京消防庁）「VR（仮想現実）を用いた地震火災時の市街地延焼からの避難行動特性」（地域安全学会論文集 No. 31）
- ・野 貴泰（警視庁）「犯罪多発地点の予測に基づく防犯パトロール経路に関する提案」（地域安全学会論文集 No. 31）
- ・中林 啓修（ひょうご震災記念 21 世紀研究機構人と防災未来センター）「退職自衛官の自治体防災関係部局への在職状況と課題 本人および自治体防災関係部局への郵送質問紙調査の分析を通して」（地域安全学会論文集 No. 31）



小林 大吉さん



野 貴泰さん



中林 啓修さん

写真 糸井川学会長から論文奨励賞受賞者への賞状の授与

(3) 第42回地域安全学会研究発表会（春季）における優秀発表賞について

地域安全学会 表彰委員会

地域安全学会では、春季・秋季研究発表会での一般論文の研究発表（口頭発表・ポスター発表）を対象として優秀発表賞を平成24年度に創設し、表彰を行っております。平成30年5月25日に北海道奥尻町で実施された第42回（2018年度）地域安全学会研究発表会（春季）におきましては、60編の口頭発表が行われました。そのうち事前に応募登録された方を選考対象とすることといたしました。

今回は31編の応募登録があり、下記の審査要領に従って採点を実施しました。採点終了後に優秀発表賞審査会を開催して厳正なる選考を行いました。審議の結果、以下の方を授賞対象者として選出いたしましたことをここに報告いたします。

・河辺 賢（MS&ADインターリスク総研㈱）

「熊本地震の罹災証明データを用いた深層学習による建物被害推定の可能性」

・川見 文紀（同志社大学大学院 社会学研究科）

「東北3県における東日本大震災被災者の生活復興に対する生活再建7要素の影響に関する基礎的研究：震災から5年が経過する中での東日本大震災生活復興調査の結果から」

・定池祐季（東北大学災害科学国際研究所）

「災害の「語り部」をめぐる変化－北海道奥尻町を事例として」

（並びは五十音順）

なお、この選考結果につきましては、研究発表会当日に行われた懇親会で発表しました。表彰式につきましては、11月の秋季大会懇親会で行う予定です。

今後の研究発表会におきましても、引き続き優秀発表賞の選考を行いますので、奮って投稿・発表していただきますようお願いいたします。

「地域安全学会優秀発表賞」審査要領（平成24年5月26日制定）（平成28年3月26日改定）

1. 授賞対象者

「地域安全学会優秀発表賞」の授賞対象者は、地域安全学会 研究発表会（春季・秋季）での一般論文の研究発表（口頭発表・ポスター発表）の発表者であり、原則、研究実施または論文作成において指導を受ける立場にある40歳（当該年度4月1日時点）未満の者とする。ただし、実務者等は研究歴等を考慮し年齢規定を緩和することもある。再受賞は認めない。また、予定された発表者ではない代理発表者及び一般論文登録時に審査を希望しない旨登録した者は対象外とする。

2. 審査方法

1) 表彰委員会委員全員、学会長・副会長、学術委員会委員長・副委員長、学術委員会電子ジャーナル部会長・副部会長、春季研究発表会実行委員長、秋季研究発表会実行委員長、および別途指名される採点委員から構成される優秀発表賞審査会が審査を行う。

- 2) 採点委員は，研究発表（口頭発表もしくはポスター発表）時に，評価シートを用いて各発表者の採点を行う。
- 3) 優秀発表賞審査会では，すべての採点委員により提出された評価シートに基づいて審議を行い，受賞者を決定する。
- 4) 審査の実施細目は別途定める。

3. 表彰

- 1) 賞は「地域安全学会優秀発表賞」と称する。
- 2) 「地域安全学優秀発表賞」の受賞者には，賞状を贈呈する。
- 3) 受賞者発表および表彰式については実施細目に定める。

5. 東日本大震災連続ワークショップ 2018 in 南三陸 開催報告

東北大学災害科学国際研究所
地域安全学会 東日本大震災特別委員会
寅屋敷哲也, 村尾修, 佐藤翔輔, 杉安和也

2018年7月29日(日)~30日(月)の2日間, 地域安全学会「東日本大震災連続ワークショップ 2018 in 南三陸」を開催いたしました(主催:地域安全学会, 共催:南三陸町, 東北大学災害科学国際研究所)。東日本大震災連続ワークショップは, 2011年3月11日に発生した東日本大震災の被災地を開催場所として, 同震災を教訓とした今後の防災と復興について現場で議論を深めることを目的として実施されています。同ワークショップは, これまで2012年に福島県いわき市で第1回を開催されたのをはじめとし, 2013年に岩手県大船渡市(第2回), 2014年に岩手県宮古市(第3回), 2015年に宮城県気仙沼市(第4回), 2016年に宮城県石巻市(第5回), 2017年に岩手県釜石市(第6回)で実施され, 今回で第7回目をむかえました。

本ワークショップは, 基調講演, 研究発表会, 現地見学会(南三陸町および女川町)の3部構成となっており, 南三陸町役場, 南三陸ホテル観洋, NPO法人アスヘノキボウ等, 地元の皆様からの多大なるご支援・ご協力を得て実施されました。

1. 基調講演・研究発表会(1日目)

1日目は, 2017年に高台に建てられた南三陸町役場の新庁舎を会場として, 南三陸町長から町の復興状況に関する基調講演, 学会員による研究発表会が行われました。開会にあたり, まず目黒公郎教授(地域安全学会長, 東京大学)より, 開催に際してご尽力いただいた南三陸町への感謝等についてお話いただき, 続いて村尾修教授(東日本大震災特別委員会委員長, 東北大学)より, ワークショップの開催趣旨等について説明があり, 最後に佐藤仁南三陸町長より, 歓迎のお言葉等についての挨拶がありました(写真1, 写真2)。

基調講演では, 開会の挨拶に引き続き, 佐藤仁南三陸町長から, 東日本大震災による町の被害の概要, 緊急対応や復旧における教訓, 復興の現状と課題, 今後の町の復興計画等について, 動画を交えた基調講演をいただきました(写真3)。町長自身が体験された震災からの生存, 震災後の対応の経験談を踏まえた今後の被災地行政に必要なこと, そして現制度の問題点等についての熱のこもったスピーチの後, 参加者による質疑, 意見交換が行われました。

続く研究発表会では, 2会場4セッションに分かれ, 20件(1件キャンセル:台風12号による発表予定者欠席)の発表があり, 活発な意見交換が行われました(写真4)。発表会終了後は, 総括として, 重川希志依教授(常葉大学)と稲垣景子准教授(横浜国立大学)から, 各会場で行われた発表の概要や質疑応答の内容等の紹介があり, 今回発表された全ての研究概要や今後の方向性等について参加者全体で理解を深めました(写真5, 写真6)。

研究発表会後の懇親会は, 南三陸ホテル観洋を会場として, ワークショップ参加者に加え, 佐藤仁町長と高橋一清危機管理課長をお招きして行われました(写真7)。立木茂雄教授(元地域安全学会長, 同志社大学), 佐藤仁南三陸町長よりご挨拶をいただき, 佐藤健教授(東北大学災害科学国際研究所)の乾杯により, 懇親会を開始しました。食事の途中には, 南三陸町指定の民俗芸

能である「行山流水戸辺鹿子踊」の演舞を觀賞し、最後に目黒教授（地域安全学会長，東京大学）から中締めにより懇親会を終了しました。



写真 1：目黒公郎学会長の挨拶



写真 2：村尾修委員長の挨拶



写真 3：南三陸町長による基調講演



写真 4：研究発表会場の様子



写真 5：重川希志依教授による総括



写真 6：稲垣景子准教授による総括



写真 7：南三陸ホテル観洋での懇親会の様子



写真 8：南三陸町民俗芸能「行山流水戸辺鹿子踊」

2. 現地見学会（2日目）

現地見学会は、午前以南三陸町、午後で女川町で行い、それぞれ20名、16名が参加しました。

南三陸町の見学会は、南三陸ホテル観洋第一営業課長の伊藤俊氏のコーディネートにより、バス車内にて各訪問地の震災によるエピソードをお話いただきながら（写真9）、①戸倉地区、②復興公営住宅、③高野会館（写真10）、④防災対策庁舎へ案内いただきました。本見学会は、南三陸ホテル観洋が2017年度のジャパン・ツーリズム・アワードで大賞を受賞された、震災を風化させないために取り組んでいる「語り部バス」のルートに、今回当ワークショップ用にアレンジされた特別コースで実施いただきました。

続く女川町の見学会では、NPO法人アスヘノキボウの後藤大輝氏より、まずは女川フューチャーセンターCamassにて、女川の被災の概要や震災からの公民連携による復興の過程等について説明をいただき（写真11）、その後、①JR女川駅、②シーパルピア女川周辺（アスヘノキボウによる支援先の紹介等、写真12）を案内いただきました。



写真9：南三陸ホテル観洋による
語り部バスツアー



写真10：南三陸町の震災遺構・高野会館
での見学の様子



写真11：NPO アスヘノキボウによる
女川の復興の説明



写真12：女川の復興まち歩きの様子

3. おわりに

この度も遠方での開催にも関わらず、30名もの多くの学会員の皆様にご参加いただきました。企画・運営の担当として、不手際等があったかと存じますが、皆様のおかげで盛会のうちに終え

ることができました。この場を借りて、本企画の開催にご尽力をいただきました、南三陸町役場の皆様、南三陸ホテル観洋およびNPO アスヘノキボウのご担当者様、参加者の皆様に厚く御礼を申し上げます。「地域安全学会 東日本大震災連続ワークショップ」は、今後も継続して開催する予定です。ぜひ次回以降もたくさんのご参加をお待ちしています。

最後に、1日目の参加者（仙台駅からの送迎バスに乗りいただいた皆様）の集合写真を掲載します（写真13）。



写真13 ワークショップの参加者（1日目、南三陸さんさん商店街のモアイ像前にて）

※1960年のチリ地震津波を契機に友好関係を結んだチリ共和国（イースター島領国）から、東日本大震災後に南三陸町に寄贈された世界に2体しかない眼が入ったモアイ像

（南三陸モアイファミリー参照：https://www.moaifamily.com/minamisanriku_moai/，2018年8月1日閲覧）

6. 地域安全学会 30 周年記念シンポジウム開催報告

1986 年 12 月、東京にて地域安全学会設立総会が開かれてから 30 年が経過し、2017 年 3 月 4 日に 30 周年記念シンポジウム「1986-20XX：地域安全学会 -世代を超えて-」が、東京大学生産技術研究所で開催されました。遅ればせながら、この場を借りて報告させていただきます。

当日は、歴代会長、会員、関係者などおよそ 80 名の参加者をご来場くださいました。入口では、以下に示す地域安全学会 30 周年記念シンポジウムのサーキュラーが配布され、そこに示されている学会の 30 年間の歩みを振り返りながら、当時を懐かしむ声も聞かれました。

シンポジウムは糸井川会長（当時）による挨拶で始まり、「近代以降の都市防災の潮流と地域安全学会」と題された筆者の発表の中で、20 世紀の都市防災の潮流の中で地域安全学会が果たしてきた役割と変化、そして当日の企画の趣旨についての説明がありました。

その後の第 1 部「私が見て来た社会と地域安全学会」では、学会創設に多大な貢献をされた二人の歴代会長のお話を伺うことが出来ました。御一人目の伊藤滋先生（初代会長）からは、東日本大震災後にスタッフと共に定期的に行われている復興の調査についての紹介があり、都内における事前復興の必要性について熱く語ってくださいました。御二人目の村上處直先生（第 6 代会長）からは筆者との対談形式により、1984 年カリフォルニアのパロアルトで日米都市防災会議から如何にして地域安全学会が設立されてきたのかなど、興味深いお話を伺うことが出来ました。

第 2 部では近藤伸也先生による、過去の地域安全学会での発表論文の分析に基づく研究動向の変遷と特徴に関する報告がありました。そしてパネルディスカッションでは、歴代会長（翠川三郎先生、重川希志依先生、立木茂雄先生）と、加藤孝明先生、秦康範先生を交えた討論が目黒公郎副会長（当時）のコーディネートにより繰り広げられました。世代の違うそれぞれの立場からご意見をいただき、わが国における防災文化を通じて、各世代をつなぐことの重要性について共通の認識を確認し、目黒副会長による閉会の挨拶で締めくくられました。

その後、参加者全員の記念撮影が行われ、新しい世代と懐かしい顔ぶれの中で懇親会が開かれました。その中で、村上處直先生からいただいた「地域安全学会は 30 年経ったけど、うまくやっているようじゃないか（笑）」という言葉が印象的でした。

シンポジウムにご協力くださいました諸先輩方と参加者および関係者をはじめ、数多くの会員様の長きにわたる暖かいご支援を受けて、このように一昨年、地域安全学会は 30 年を迎えました。今後の学会にも期待しつつ、この場を借りて、御礼申し上げます。

（文責：東北大学災害科学国際研究所 村尾修）



地域安全学会 30周年記念シンポジウム

「1986-20XX：地域安全学会 一代を超えて」

2017年3月4日(土)
14:00-17:00

東京大学生産技術研究所 An 棟
(東京都目黒区駒場4-6-1)
https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ia/access/ (定員 250名)

－プログラム－

- 総合司会：藤本 謙一 / 早稲田大学
 14:00 開会の挨拶
 地域安全学会会長 高井川 一 / 東大
 14:05 「近代以降の都市防災の潮流と地域安全学会」
 総幹事 高井川 一
 【第1部】
 14:20 講演「私が見た社会と地域安全学会」
 伊藤 隆 / 早稲田大学 1986年度・1987年度
 村上 直道 / 早稲田大学 1988年度・1989年度
 15:20 休憩
 【第2部】
 15:30 報告「地域安全学会の研究動向と特徴」
 近藤 伸也 / 早稲田大学
 藤本 謙一 / 早稲田大学
 15:50 「たぐひディスカッション」
 「1986-20XX：地域安全学会 一代を超えて」
 ◆進行 巨島 昌典 / 東大
 ◆パネリスト
 第1司会 藤本 謙一 / 1986年度・1987年度
 第2司会 藤本 謙一 / 1988年度・1989年度
 第3司会 藤本 謙一 / 1990年度・1991年度
 第4司会 藤本 謙一 / 1992年度・1993年度
 第5司会 藤本 謙一 / 1994年度・1995年度
 第6司会 藤本 謙一 / 1996年度・1997年度
 第7司会 藤本 謙一 / 1998年度・1999年度
 第8司会 藤本 謙一 / 2000年度・2001年度
 第9司会 藤本 謙一 / 2002年度・2003年度
 第10司会 藤本 謙一 / 2004年度・2005年度
 第11司会 藤本 謙一 / 2006年度・2007年度
 第12司会 藤本 謙一 / 2008年度・2009年度
 第13司会 藤本 謙一 / 2010年度・2011年度
 第14司会 藤本 謙一 / 2012年度・2013年度
 第15司会 藤本 謙一 / 2014年度・2015年度
 第16司会 藤本 謙一 / 2016年度・2017年度
 16:50 閉会の挨拶
 地域安全学会副会長 巨島 昌典
 16:55 記念撮影
 17:30 懇親会 (-19:30)

◆参加対象者：学会会員、防災担当者、一般市民(参加費無料・要要覧)
 ◆参加費：無い(飲み物、電子メールにて、申込に「30周年シンポジウム」を
 本文に「氏名、所属、30周年記念シンポジウム参加費希望」と書いて、
 地域安全学会事務局 (iss2008@iss.u-tokyo.ac.jp) までお申し込みください
 ◆参加費：2017年2月27日(月)

【主催】一般社団法人地域安全学会

ご挨拶
 地域安全学会会長(16代)
 高井川 一

本年度、地域安全学会は30年を迎えました。
 本学会は、生活者の立場から地域社会の安全問題を
 考え、地域社会の安全性の向上に寄与することを目的
 として、1986年12月に創立されました。自然科
 学のみならず人文科学も含めた多岐にわたる研究者、技術
 者、実務家の参加により運営されている本学会の30
 年間にあつた日々は、21世紀の今まさに求め
 られている社会的な課題です。
 最近10年間の我が国における自然災害の被害を
 振り返ってみても、熊本地震(2016.4.14)、新潟
 県中越後地震(2007.7.16)、岩手・宮城内陸地震
 (2008.8.14)、東北地方太平洋沖地震(2011.3.11)、
 平成26年8月豪雨(2014.7.30～8.26)、平成27
 年9月関東・東北豪雨(2015.9～11)、熊本地震
 (2016.4.14～)等、多数の災害が発生しました。これ
 らの災害によって、被害者をはじめとして多くの方
 の生活の基盤が大きく支離れ、甚だしい被害に
 向けたり救済がなされてきたほか、地域安全学会の
 意義の重要性は、これらの災害に立ち向き直る国民、
 地域社会の安全性の向上に貢献する活動を通じてま
 した。
 地域安全学会の特徴は、異なる人々の多様性と、グル
 ープとしての協働性にあります。自然科学のみならず
 人文科学も含めた多岐にわたる研究者、技術者、実務家の
 参加を求めていることで、研究と実践の両輪を軸とし
 ながら活動していることが、地域安全学会の大きな強
 みです。
 また、この10年間で本学会の大きな節目は、
 2013年に法人化が実現し、一般社団法人として、
 新たな出発をしたことです。法人化によって、活動の
 さらなる透明化、社会・公衆への貢献の道筋が認めら
 れています。法人化は社会における学会の位置づけを
 明確にし、その活動の透明化・拡充を促したもので
 あると言えます。このことは他方、法人格をもった学
 会では、例えば外部からの寄付金の受け取り、その
 活動の透明性を高めることができることとなります。
 技術の加速度的進展によるイノベーションの急が
 れる中で、その活動の透明化・拡充を促したもので
 あり、学会員の皆様の更なる活躍によって、本学会の
 発展・社会貢献活動がさらに大きく進むことが可能
 性も広がります。諸君の活躍を、法人化した
 本学会を舞台に一つずつ発揮と共に願っています
 と思います。
 今後とも、従来もまして皆様からのご支援を賜り
 ますよう、お願い申し上げます。

地域安全学会 30周年記念シンポジウム サーキュラー (プログラム)

年次	国内の主要災害・事故	海外の主要災害・事故	歴代役員	地域安全学会の動き	企画・制作・調査等	論文賞	論文奨励賞	技術賞	年間優秀論文賞	優秀発表賞
1986	日本中部地震									
1986	福島県大飯原発 1号機大規模 炉心溶融・水素 爆発事故	メキシコ地震 米スベネシェット山噴火 (愛媛県大津町)	初代 藤本 謙一 (早稲田大学)	第1回 総幹事会 地域安全学会発足(東京) 第1回総会(東京)						
1987	千歳線大津波 津波被害(津波)	ロシア・エカテリンブルグ 地震	第2代 村上 直道 (東京大学)	第2回総会(東京) 伊豆大島津波(東京) 第3回総会(東京)	ニュースレター(発行)					
1988	豊田高炉1号機炉内 水素爆発事故 茨城県大洗町 津波被害(津波)	米コロラド州 アルメドウラ 山火	第3代 村上 直道 (東京大学)	第3回総会(東京)	災害情報の収集と提供 一歩一歩大津波 から防災へ(東京)					
1989	紅葉山火災 津波被害(津波)	ロシア・エカテリンブルグ 地震	第4代 藤本 謙一 (早稲田大学)	第4回総会(東京) 第5回総会(東京)	ロシア・エカテリンブルグ 地震被害調査					
1990	新潟県中越後地震 津波被害(津波)	ロシア・エカテリンブルグ 地震	第5代 藤本 謙一 (早稲田大学)	第5回総会(東京) 第6回総会(東京)						
1991	兵庫県南部地震 津波被害(津波)	ロシア・エカテリンブルグ 地震	第6代 藤本 謙一 (早稲田大学)	第6回総会(東京) 第7回総会(東京)	地域安全学会機関誌創刊					
1992	三浦半島沖地震 津波被害(津波)	ロシア・エカテリンブルグ 地震	第7代 藤本 謙一 (早稲田大学)	第7回総会(東京) 第8回総会(東京)	地域安全学会ロビー化					
1993	新潟県中越後地震 津波被害(津波)	ロシア・エカテリンブルグ 地震	第8代 藤本 謙一 (早稲田大学)	第8回総会(東京) 第9回総会(東京)	ノースリブ地域防災課					
1994	新潟県中越後地震 津波被害(津波)	ロシア・エカテリンブルグ 地震	第9代 藤本 謙一 (早稲田大学)	第9回総会(東京) 第10回総会(東京)						
1995	新潟県中越後地震 津波被害(津波)	ロシア・エカテリンブルグ 地震	第10代 藤本 謙一 (早稲田大学)	第10回総会(東京) 第11回総会(東京)						
1996	新潟県中越後地震 津波被害(津波)	ロシア・エカテリンブルグ 地震	第11代 藤本 謙一 (早稲田大学)	第11回総会(東京) 第12回総会(東京)	地域安全学会設立10周年					
1997	新潟県中越後地震 津波被害(津波)	ロシア・エカテリンブルグ 地震	第12代 藤本 謙一 (早稲田大学)	第12回総会(東京) 第13回総会(東京)	調査・委員発表					
1998	新潟県中越後地震 津波被害(津波)	ロシア・エカテリンブルグ 地震	第13代 藤本 謙一 (早稲田大学)	第13回総会(東京) 第14回総会(東京)						
1999	新潟県中越後地震 津波被害(津波)	ロシア・エカテリンブルグ 地震	第14代 藤本 謙一 (早稲田大学)	第14回総会(東京) 第15回総会(東京)						
2000	三宅島火災 津波被害(津波)	ロシア・エカテリンブルグ 地震	第15代 藤本 謙一 (早稲田大学)	第15回総会(東京) 第16回総会(東京)						
2001	新潟県中越後地震 津波被害(津波)	ロシア・エカテリンブルグ 地震	第16代 藤本 謙一 (早稲田大学)	第16回総会(東京) 第17回総会(東京)						
2002	新潟県中越後地震 津波被害(津波)	ロシア・エカテリンブルグ 地震	第17代 藤本 謙一 (早稲田大学)	第17回総会(東京) 第18回総会(東京)						
2003	新潟県中越後地震 津波被害(津波)	ロシア・エカテリンブルグ 地震	第18代 藤本 謙一 (早稲田大学)	第18回総会(東京) 第19回総会(東京)						
2004	新潟県中越後地震 津波被害(津波)	ロシア・エカテリンブルグ 地震	第19代 藤本 謙一 (早稲田大学)	第19回総会(東京) 第20回総会(東京)						
2005	新潟県中越後地震 津波被害(津波)	ロシア・エカテリンブルグ 地震	第20代 藤本 謙一 (早稲田大学)	第20回総会(東京) 第21回総会(東京)						
2006	新潟県中越後地震 津波被害(津波)	ロシア・エカテリンブルグ 地震	第21代 藤本 謙一 (早稲田大学)	第21回総会(東京) 第22回総会(東京)						
2007	新潟県中越後地震 津波被害(津波)	ロシア・エカテリンブルグ 地震	第22代 藤本 謙一 (早稲田大学)	第22回総会(東京) 第23回総会(東京)						
2008	新潟県中越後地震 津波被害(津波)	ロシア・エカテリンブルグ 地震	第23代 藤本 謙一 (早稲田大学)	第23回総会(東京) 第24回総会(東京)						
2009	新潟県中越後地震 津波被害(津波)	ロシア・エカテリンブルグ 地震	第24代 藤本 謙一 (早稲田大学)	第24回総会(東京) 第25回総会(東京)						
2010	新潟県中越後地震 津波被害(津波)	ロシア・エカテリンブルグ 地震	第25代 藤本 謙一 (早稲田大学)	第25回総会(東京) 第26回総会(東京)						
2011	東北地方太平洋沖 地震	ロシア・エカテリンブルグ 地震	第26代 藤本 謙一 (早稲田大学)	第26回総会(東京) 第27回総会(東京)						
2012	東北地方太平洋沖 地震	ロシア・エカテリンブルグ 地震	第27代 藤本 謙一 (早稲田大学)	第27回総会(東京) 第28回総会(東京)						
2013	平成25年台風25号	ロシア・エカテリンブルグ 地震	第28代 藤本 謙一 (早稲田大学)	第28回総会(東京) 第29回総会(東京)						
2014	平成26年8月豪雨	ロシア・エカテリンブルグ 地震	第29代 藤本 謙一 (早稲田大学)	第29回総会(東京) 第30回総会(東京)						
2015	平成27年9月関東・ 東北豪雨	ロシア・エカテリンブルグ 地震	第30代 藤本 謙一 (早稲田大学)	第30回総会(東京) 第31回総会(東京)						
2016	熊本地震 大分県津波	ロシア・エカテリンブルグ 地震	第31代 藤本 謙一 (早稲田大学)	第31回総会(東京) 第32回総会(東京)						
2017		ロシア・エカテリンブルグ 地震	第32代 藤本 謙一 (早稲田大学)	第32回総会(東京) 第33回総会(東京)						

地域安全学会 30周年記念シンポジウム サーキュラー (地域安全学会年表)

【当日の風景】



糸井川栄一会長（当時）による開会の挨拶



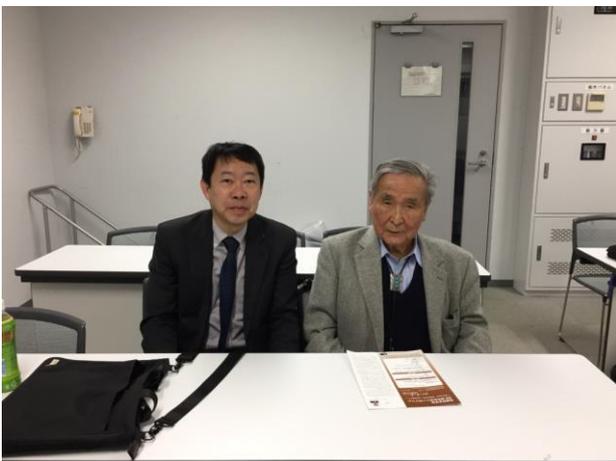
近藤伸也先生による報告



伊藤滋先生による講演



パネルディスカッション



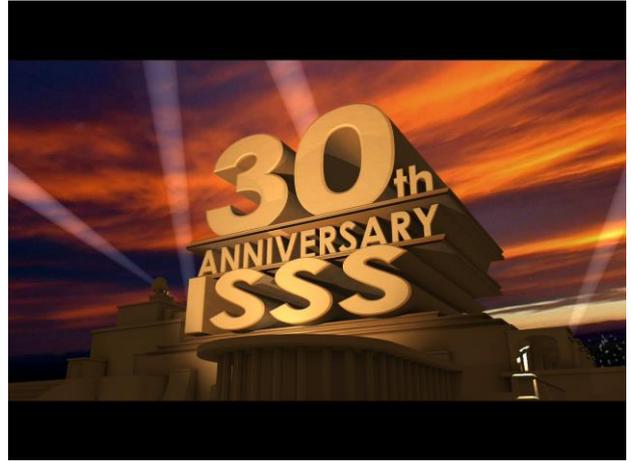
村上處直先生と筆者との対談打ち合わせ



目黒公郎副会長（当時）による閉会の挨拶



懇親会に出席された歴代会長記念写真



30周年記念スライドショー



長能正武先生（元副会長）による挨拶



30周年記念スライドショー



小川雄二郎先生（元副会長）による挨拶



懇親会風景

7. 寄稿

これまでの研究テーマのことなど

田中正人（追手門学院大学地域創造学部）

1995年1月16日、修士論文の仕上げに追われていた私は、いったん下宿先のアパートに帰った後、ふたたび夕方になって大学へ向かいました。大学は神戸の六甲山麓にありました。夜も更け、研究室にいたのは私と2人の後輩だけでした。日付が変わり、夜明けが近づくも、論文提出の締め切りが迫るなか、私は黙々とマッキントッシュのキーボードを叩いていました。ひとりの後輩は、疲れたようすで長椅子に寝そべっていました。その後輩がおもむろに起き上がり、ふたたび何やら作業を始めたときでした。

次第に大きくなる揺れ、書架のきしみと転倒、テレビの飛来、停電、暗闇の中の激しい破壊音、その後の不自然なほどの静寂。あと少しでも、兵庫県南部地震の発生が早ければ、後輩は長椅子と書架の間に挟まれていたし、あと一瞬、停電が早ければ、私は飛来してくるテレビをかわすことができなかった。あと半日、前後にずれていたら、全壊したアパートでの負傷は避けられなかったはずです。

いま生きている私たちは、たまたま生きている。これは疑いようのない真理だと思います。では、あのとき亡くなった人びとも、たまたま亡くなったのだろうか。ずっと疑問でした。そこには、単なる偶然ではない、何か構造的な不正義みたいなものが潜在するんじゃないかという直感がありました。その直感が、そもそも学問上の「常識」だったと気づくのは、恥ずかしながらかなり後になってからのことでした。何しろ当時は、災害の素因と誘因のことも、「ヴァルネラビリティ」も知りませんでしたから。

ともかく私はそれ以降、「構造的な不正義」の正体を追求することになりました。およそ10年間、阪神・淡路大震災の被災地で、都市計画コンサルタントとしての仕事をした後、最初に取り組んだ研究は「被災者の孤立」の問題でした。被災地では、しきりに「コミュニティの破壊」といったことが言われていました。でもコミュニティが壊れるというのは具体的に何がどうなることなのかはよく分かりませんでした。また仮に「コミュニティの破壊」が起こっていたとして、その原因が何なのかもクリアにはなっていませんでした。この2つを課題として、博士論文「被災市街地の復興過程におけるコミュニティの分解と再生に関する研究」を書きました。

それ以後、阪神・淡路大震災に加え、新潟県中越地震、福岡県西方沖地震、東日本大震災、福島原発事故災害、紀伊半島大水害、広島土砂災害、南海トラフ地震などの被災地や被災リスク地域を対象に、実務の傍らささやかながら研究をつづけることになりました。

*

テーマは2つに分かれます。

ひとつは、博士論文から引き継いだ〈Community〉の維持とは何かという問いです。復興過程におけるコミュニティの大切さは誰もが認めるところだと思います。けれど、それを維持するというのは結局のところ何を維持することなのか。コミュニティという言葉はある種のマジックワードのようで、何となくわかったような気になってしまいがちですが、実はそれを維持するということの核心は誰も分かっていないのではないかと、という疑念がありました。むしろそんなわけではなく、やはりここにも学問上の膨大な知見とおそるべき密度の議論の蓄積がありました。ただ、どうにもあまり納得できず、いま思い返してもかなり無謀と思われる調査に手を出しました。それが被災地における一連の「孤独死」研究です。

困難と思われた調査を可能にしてくださったのは、神戸大学法医学教室の上野易弘先生と、上野先生にアプローチをしてくれた、研究室の後輩にあたる高橋知香子さんでした。死体検案書を1枚ずつ繰る作業は、医学・看護学の分野から遠い私にはなかなかきついことでしたが、統計データからは決して見えてこない一人ひとりの存在を、ほんのわずかですが感じ取ることができたのかもしれません。

被災地の「孤独死」とは、被災者の社会関係が絶対的・不可逆的に失われた先にある、尊厳なき結末であり、避け得るべき死です。災害のたびに繰り返されてきたこの問題は、もはやある程度はやむを得ないという空気に覆われているかのようです。その背景には、実態把握を放置したまま、対策の議論ばかりが先行していることがあるように思われます。実態とずれた対策が奏功しないのは明らかです。被災地の「孤独死」は高齢者問題ではありません。生活資源とその回復手段の喪失による孤立、セルフネグレクト、アルコール依存の問題です。孤立の誘因は人間関係の破断ではありません。生活圏域のずれに伴う生活行動の途絶と生活空間の変化です。すなわち維持すべきコミュニティとは、一人ひとりの生活圏域・生活行動・生活空間であって、人間関係それ自体ではない。これが〈Community〉の維持とは何か、という問いに対する現時点での仮説です。

もうひとつのテーマは、〈Relocation/Displacement〉の問題です。さまざまな被災地を対象に、生活再建過程での居住地移動のプロセスを追跡してきました。原点となったのは、B・ラファエル『災害の襲うとき』（石丸正訳、みすず書房1995）です。いつ、だれが、どこに、なぜ移動したのか、一人ひとりの選択の背景を分析しました。いずれの被災地にも、選択的な移動／残留がある一方で、非選択的な移動／残留がありました。前者は経済的、社会的な資源を豊富に持ち、後者はより少なくしか持っていない被災者でした。移動／残留の背景には、区画整理や集団移転、長期避難指示、災害危険区域といった「制度」がありました。すなわち被災地で生じる劇的な居住地移動は、ブラウン運動のようなランダムな軌跡を描いているのではなく、制度によってコントロールされたものと考えられます。

このことは、被災地だけではなく南海トラフ地震のリスクを抱えた太平洋沿岸地域でもみられることが分かりました。低リスクの高台に公的な施設が移転し、それが若いファミリー層の移転を誘導しています。一方、高リスクの低平地には高齢層ばかりが残されつつあります。むろんこれは自己決定の結果なのかもしれません。しかしながら、公的施設移転という政策がリスクの偏在を引き起こしているのは確かです。

居住地をコントロールする制度・政策は、被災者／居住者をその保有する資源の多寡によって峻別し、より少ない資源しか持たない人びとの原住地からの「追い出し」や、原住地への「置き去り」を誘導するようにデザインされています。マクロにはまちがいなく復興を推進し、リスクを軽減しているこれらの制度・政策は、はたして正当化され得るのでしょうか。ここに〈Relocation/Displacement〉をめぐる最大の論点があると思います。

「置き去り」の誘導をどのように批判するのはとても難しい問題です。しかし「追い出し」については明らかな瑕疵を認めます。なぜなら、原住地は生活再建の最初の手がかりだと思うからです。原住地という生活圏域には、かつての生活行動を再開し、生活空間を再現する糸口がある。つまり〈Community〉の記憶のようなものと言えるでしょうか。〈Relocation/Displacement〉の問題とは、そのような手がかりや糸口となるべき記憶からの「追い出し」を結果する点にあると考えられます。

〈Community〉の記憶が残された原住地、それを仮に〈Home〉と呼ぶことにします。被災者はなぜ〈Home〉に還るのか。そこには、被災で多くの生活資源が失われてなお、日常を取り戻すための何らかの手がかりが残っているからです。〈Home〉で体制を立て直し、あるいは〈Home〉と行き来しながら、〈Home〉への帰還を選択肢のひとつとしながら、徐々に日常を繕う。このようにして生活再建は果たされる。

居住地への帰還を困難にする制度・政策は、一人ひとりの生活圏域・生活行動・生活空間の維持をも著しく困難にします。より少ない資源しか持たない人びとの居住はゆらぎ、日常を取り戻せないまま、人生が終焉を迎える。ここにも「構造的な不正義」が潜んでいるように思います。

災害の人的被害は不平等に分布します。なぜならハザードは脆弱性を集中的に捕らえるからです。それが災害の原理であることを、今の私は知っています。さらにその不平等は、発災・復旧・復興・事前復興という「災害サイクル」を通じて拡大していくということも知っています。たとえば、復興過程における生活再建は不均衡に展開します。発災時を生き延びた被災者が、その後を生き延びるかどうかは自明ではありません。「ショック・ドクトリン(ナオミ・クライン)」「復興災害(塩崎賢明)」「ハサミ状較差(中井久夫)」「緩慢な自殺(額田勲)」などは、その実相を深くえぐり取った概念と言えると思います。また前述のとおり、事前復興過程における減災の取り組みは、しばしばリスクを不均等に分配します。リスクの偏在が、次の災害による犠牲をさらに不平等にする蓋然性はきわめて高いと考えられます。

このような不平等の拡大を牽引しているのは、けっして邪悪な何かではなく、むしろリスクを抑え、復興を推進するために考案された制度・政策です。居住地コントロールという制度・政策が、「災害サイクル」を「不平等拡大サイクル」にしているのだとしたら、もはやその正当化を支持する論理はどこにも存在しない。そのように思います。

*

博士論文を提出した翌年、私は勤めていた事務所を引き継ぎ、自ら主宰することになりました。2008年8月のことです。それからさらに10年が経過しました。相変わらずコミュニティベースのまちづくり支援業務を携えつつ、並行して研究活動に取り組んでいます。2016年からは大学教員の仕事にも就いてしまったので、なかなか思うように時間が取れませんが、そんなことはお構いなしに災害はやってきます。本年6月には大阪北部地震が発生し、勤務先の大学が被災しました。翌月の西日本豪雨は、今まさに緊急対応のフェーズにあります。「災害サイクル」は確かにくるくと回りつづけています。

兵庫県南部地震発生から23年半が経ち、「構造的な不正義」の正体をかすかに掴むことができました。もっとも、正体をいくら精緻に描き出したところで、不条理をもたらす構造が勝手に瓦解してくるわけではありません。いかにその構造を解体し、「不平等拡大サイクル」を止めるのか。次の10年で考えていこうと思っています。

(2018.8.2.記)



地域安全学会ニューズレター
第 104 号 2018 年 8 月

地 域 安 全 学 会 事 務 局
〒102-0085 東京都千代田区六番町 13-7
中島ビル 2 階
株式会社サイエンスクラフト内
電話・FAX : 03-3261-6199
e-mail : iss2008@iss.info

次のニューズレター発行までの最新情報は、学会ホームページ (<http://iss.jp.net/>) をご覧ください。